

原型の木彫り、着々と



大湊村のアトリエで、原型となる木彫りの像を制作する鎌田さん



直立不動で歌う東海林太郎
(東海林太郎音楽館提供)

歌手・東海林太郎 直立不動像計画

直立不動で歌うスタイルで知られる秋田市出身の歌手東海林太郎(1898~1972年)の「直立不動姿」を後世に残そうと、「東海林太郎直立不動像建立委員会」(秋田市、藤本光男会長)が銅像の制作を進めている。作り手は大湊村の彫刻家鎌田俊夫さん(76)。8月に自ら制作に名乗りを上げ、原型となる木彫りの像を彫り進めている。

鎌田さんは1944年、中国山東省生まれ。太平洋戦争の敗戦が濃厚となる中、東海林が慰問のため満州各地を回り、歌ったと後に家族から聞いた。そんな東海林に以前から親近感を抱いていたという。委員会の活動を知り、すぐに連絡を取り、「手伝わせてほしい」と願いだした。

彫刻家・鎌田さん制作進める

原型となる木像は、長さ約2・2メートル、直径約65センチの木材をチェーンソーやのみで削って制作。「どこを削り、どこを残すのか。人体の構造も理

秋田市大町の東海林太郎音楽館を訪れて資料を読み、デザインのイメージを膨らませた。委員会と相談の上、50代ごろの東海林をモデルに「えんぴつ服に丸めがね」の特徴的な姿を表現しようと決めた。

解しながらの繊細な作業。心を込め、本物の東海林以上に「東海林らしい姿」を作りたいと語る。
原型の木像は来年夏ごろ完成予定。その後、原型から銅像を鑄造して建設中の新文化施設(2021年度完成予定)の周辺に設置する計画だ。
制作費(設置費など含む)は800万円。委員会はホームページなどを通じて県内外から寄付を募っている。問い合わせは佐々木三知夫理事長 090・1933・2180 (柳原史幸)